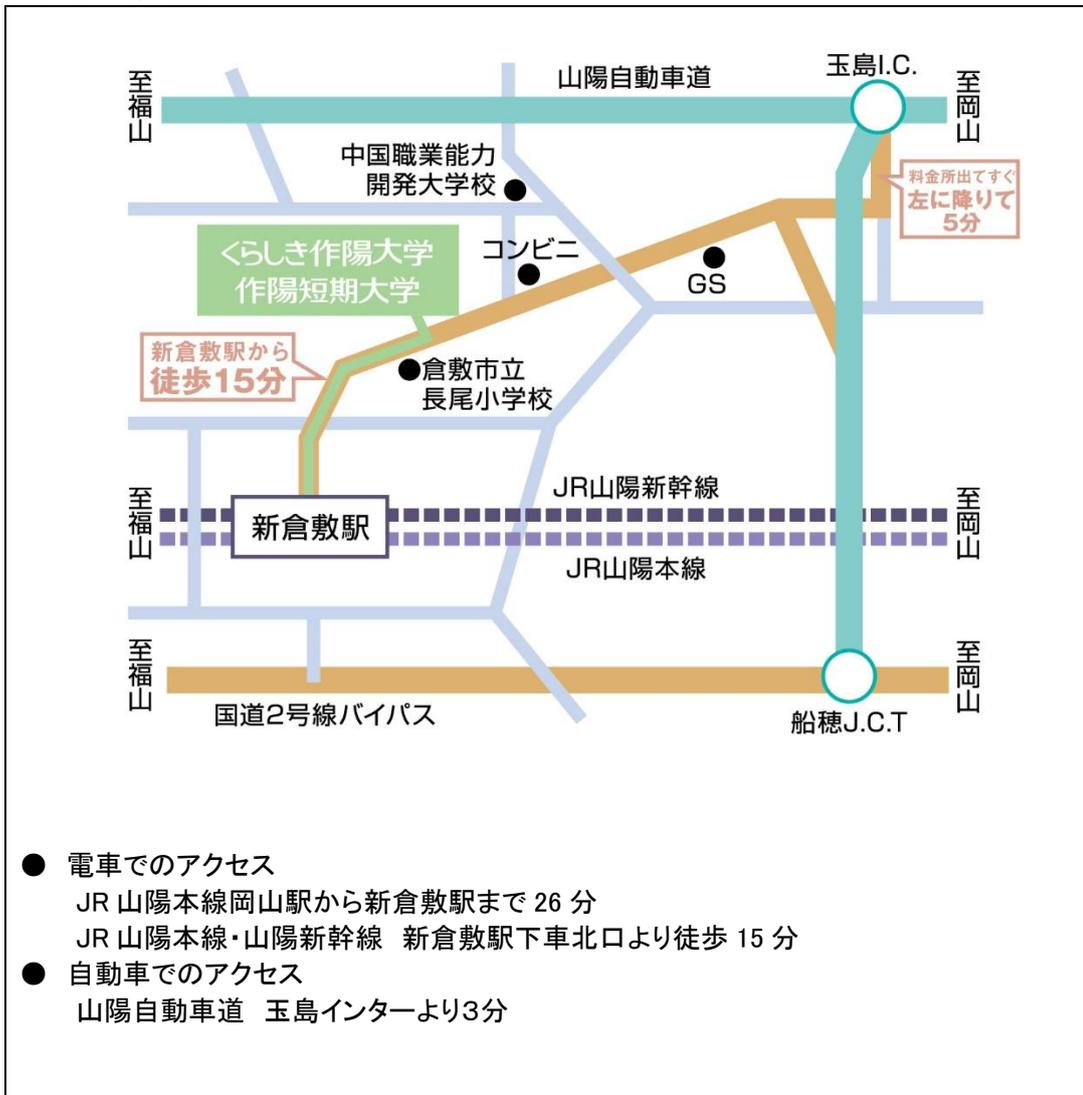


## (11)くらしき作陽大学

### ① 開講期間・試験期間・授業時間

開講期間	前期	2026年4月8日	～	2026年7月29日
	後期	2026年9月14日	～	2027年1月12日
試験期間	前期	2026年7月30日	～	2026年8月3日
	後期	2027年1月13日	～	2027年1月19日
授業時間	1限	9:30	～	11:00
	2限	11:10	～	12:40
	3限	13:25	～	14:55
	4限	15:05	～	16:35
	5限	16:45	～	18:15

### ② アクセス(案内図)



③ 担当窓口

教育企画部教育支援室	
所在地:	倉敷市玉島長尾 3515
電話:	086-523-0827

④ 開講大学から単位互換履修生への連絡事項

・ 履修申込期限

本学では、申込期限は前期:3月26日(木)まで、後期:9月9日(水)までとします。

・ 履修手続

所属大学の窓口に所定の期間内に単位互換履修願(写真添付)を提出してください。  
対面授業履修者は初回授業受講時に、1号館1階事務局教育支援室窓口を訪ねてください。

・ 施設利用

本学学生と同様に図書館・食堂等の施設が利用できます。

・ 特記事項

各科目の曜日・時間は変更の場合があるため、事前に開講大学までお問合せください。

⑤ 各科目のシラバス

大学ホームページ シラバス掲載URL

<http://www.ksu.ac.jp/>  
<https://unipa.ksuniv.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml>

・対面授業科目

対面授業				11001
ロシア語 I			A. オランスカヤ	
Russian Language I				
履修年次1～4	1単位	前期	1コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>            語彙、長文、翻訳、新しい単語についての勉強をします。各授業のテーマは、年度が上がるごとに文章構成の難易度を上げていくこととなります。キリル文字の書き方(ブロック体、筆記体)から簡易な作文までを課します。</p>				
<p><b>【授業内容】</b>            1 挨拶、自己紹介の仕方            2 あなたは誰？これは何？返答の仕方            3 公式な場での挨拶            4 職業、専門、名刺交換            5 物語作文            6 構文:持っている(テーマ:私のもの)            7 アドレス交換の仕方            8 動詞:する、見る、読む、聞く            9 テーマ:趣味            10 テーマ:家、部屋、家具            11 テーマ:私の楽器            12 テーマ:民族料理、飲み物            13 テーマ:スタイル、流行、ドレスコード            14 テーマ:交通、動詞:定動詞/不定動詞            15 テーマ:祝日</p>				
<p><b>【テキスト】</b>            適宜紹介する</p>				
<p><b>【参考図書】</b>            授業時に指示</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>            期末試験 70%中間レポート 20%授業への取り組み 10%</p>				

対面授業				11002
ロシア語Ⅱ			A. オランスカヤ	
Russian Language Ⅱ				
履修年次1～4	1単位	後期	1コマ	
<b>【授業の目的】</b> 語彙、長文、翻訳、新しい単語についての勉強をします。各授業のテーマは、年度が上がるごとに文章構成の難易度を上げていくこととなります。多様な長文(基礎)から文法読解までを課します。				
<b>【授業内容】</b> 1 多様な長文対策 2 長文教材読解 3 長文編集(文章の省略化) 4 長文編集(文章の長文化) 5 内容に合わせた手紙の書き方 6 ニュース(リスニング) 7 申請書、手記、報告書の書き方 8 電話での会話 9 荷物の送付の仕方 10 計画の立て方 11 電話での会話(公式の見本) 12 テレビ放送のスピーチ翻訳 13 スターのインタビュー翻訳 14 公式な組織とのアポイントの取り方 15 テーマ:記念日、式典				
<b>【テキスト】</b> 適宜紹介する				
<b>【参考図書】</b> 授業時に指示				
<b>【成績評価の方法】</b> 期末試験 70%中間レポート 20%授業への取り組み 10%				

対面授業				11003	
食統計学			松本 隆行		
Statistics for Food Science					
履修年次2~4	2単位	前期	1コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>  社会現象や自然現象を数学的にどのように表現されるのか、そこから真の姿や隠れた要因をどのように探るのか、統計処理の基本を講義する。  数学的根拠を示しながら、適宜課題に取り組み、また、パソコンを利用するなどして、より深く理解できるように進める。</p>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス 全体の授業計画および受講の心構えと授業の進め方などを説明する。</li> <li>2. 統計学の目的 具体的事例を通して、統計学の目的、重要性、汎用性について学ぶ。</li> <li>3. データの取り扱い データの種類とその特徴、取り扱いの違いについて理解する。</li> <li>4. データを記述する(1): データの特性量 データの特性を知る上で重要となる数値、基本統計量について理解する。</li> <li>5. データを記述する(2): データの視覚表現 データは、その特徴により、どのような種類に分類されるのかを理解し、適切なグラフ表現、あるいは、グラフの読み取りについて学ぶ。</li> <li>6. 分布の読み取りと比較 データの特性を知る上で重要となる分布の図式表現とその読み取りについて学ぶ。</li> <li>7. 頻度と確率 統計の基礎となる、確率について理解し、様々な確率分布を学ぶ。</li> <li>8. 母集団と標本 統計学の基礎となる母集団と標本の関係、および、標本抽出における注意について学ぶ。</li> <li>9. 標本から全体像を推測する(1) 標本から母数を推定するための基本的考え方について学ぶ。</li> <li>10. 標本から全体像を推測する(2) 確率分布を通して、事象の起こりやすさと、真偽の判定に関わる統計的仮設検定の基本的な考えか方を理解する。</li> <li>11. 統計学的仮設検定(1) 標本から平均を検討する方法(t検定)について学ぶ。</li> <li>12. 統計学的仮設検定(2) 分散分析(一元配置について学ぶ。</li> <li>13. 統計学的仮設検定(3) <math>\chi</math>(カイ)二乗検定等について学ぶ。</li> <li>14. 関係性の分析(1) 複数のデータ間の関係を調べる方法(相関分析)について学ぶ。</li> <li>15. 関係性の分析(2) データ間に潜む関係について探る方法(回帰分析)について学ぶ。</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b> 緒方裕光 編著。2024年8月31日、『統計情報処理入門』、建帛社</p>					
<p><b>【参考図書】</b> 特に必要なし</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  課題・レポート(60%)小テスト(30%)授業の取り組み 姿勢(10%)</p>					
<p><b>【備考】</b> パソコン(Microsoft Excel 2016 以上インストール済み)を使用しますので持参して下さい。</p>					

対面授業				11004	
発達障害児教育総論			檜皮 修、他		
Introduction of Education for Children with Developmental Disabilities					
履修年次 1~4	2 単位	後期	1 コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>          発達障害の要因とする脳機能に関わる病的、生理的および心理的な特徴と二次障害について概説する。加えて、実践的な授業場面を想定し、発達障害の幼児児童生徒の行動特性を理解し、教育的指導のあり方、配慮事項の重要性についても取り扱う。</p>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達障害とは</li> <li>2 自閉スペクトラム症の心理・生理・病的理解と行動特性</li> <li>3 注意欠如多動症の心理・病理・生理的理解と行動特性</li> <li>4 限局性学習症の心理・生理・病的理解と行動特性</li> <li>5 コミュニケーション症群の心理・生理・病的理解と行動特性</li> <li>6 その他の発達障害の心理・生理・病的理解と行動特性</li> <li>7 情緒障害の心理・生理・病的理解と行動特性</li> <li>8 発達障害のアセスメント方法と関係機関との連携</li> <li>9 発達障害のある幼児児童生徒への指導・支援   1【自閉スペクトラム症】</li> <li>10 発達障害のある幼児児童生徒への指導・支援   2【注意欠如多動症・限局性学習障害】</li> <li>11 発達障害のある幼児児童生徒への指導・支援   3【コミュニケーション症群・情緒障害】</li> <li>12 特別支援学校のセンター的機能と多職種連携</li> <li>13 通級による指導や特別支援学級における自立活動の指導・教育課程編成</li> <li>14 発達障害のある幼児児童生徒への基礎的環境整備と合理的配慮</li> <li>15 発達障害のある幼児児童生徒の指導方法</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b>          授業ごとに資料を配布</p>					
<p><b>【参考図書】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・American Psychiatric Association(監訳)高橋三郎 他:DSM-5-TR 精神疾患の診断・統計マニュアル。医学書院, 2023, ISBN 978-4-260-05218-4, 23,100 円</li> <li>・加藤正仁 他:発達支援学その理論と実践 育ちが気になるこの子育て支援体系。協同医書出版社, 2011, ISBN 978-4-763921-31-4, 5,280 円</li> <li>・文部科学省:『障害のある子供の教育支援の手引-子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて-』, 2022, 文部科学省 HP よりダウンロード可能</li> <li>・文部科学省:『特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領&lt;平成 29 年 4 月告示&gt;』。文部科学省 HP よりダウンロード可能</li> <li>・文部科学省:『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)&lt;平成 30 年 3 月&gt;』。文部科学省 HP よりダウンロード可能</li> <li>文部科学省:『小学校学習指導要領&lt;平成 29 年 3 月告示&gt;』。文部科学省 HP よりダウンロード可能</li> </ul>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>          以下、2つの観点で評価する。          ①1-8 回授業終了時課題(50%)          ②9-15 回授業終了時課題(50%)</p>					

対面授業				11005
吹奏楽の歴史と魅力			長瀬 敏和、菅付 章宏	
The history and charm of brass bands				
履修年次 2～4	2 単位	前期	1 コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  吹奏楽活動の実際を、視聴覚機器等を通して紹介し、芸術的価値及び教育的価値を学ぶ。また、吹奏楽の編成楽器を個別に聴いたり演奏したりするなど体験的に学ぶ。さらに、吹奏楽の歴史にも触れ、吹奏楽の基礎を多角的に学ぶ。</p>				
<p><b>【授業内容】</b>  1 私と吹奏楽(または音楽)個人の吹奏楽(音楽)との出会いを発表  2 吹奏楽の歴史と現在  3 マーチの魅力  4 吹奏楽の魅力  5 楽器の知識(木管)  6 楽器の知識(金管)  7 楽器の知識(打楽器)  8 移調楽器の取り扱い—基礎  9 移調楽器の取り扱い—応用  10 吹奏楽、アンサンブル編曲法—基礎編  11 吹奏楽、アンサンブル編曲法—応用編  12 演奏会企画の立て方、選曲について  13 合奏教本の選び方と使用方法  14 指揮法の基礎  15 総括</p>				
<p><b>【テキスト】</b>  プリント(授業で提供する)</p>				
<p><b>【参考図書】</b>  なし</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  (1)レポート(30%)(2)小テスト(30%)(3)授業への参加度・発言の積極性(40%)</p>				

対面授業				11006	
吹奏楽I			長瀬 敏和、他		
Brass bands I					
履修年次 1~4	2 単位	前期	2 コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>  吹奏楽マスターピースや編曲作品、最新作品などを取り上げる。それぞれの作品の時代背景などを考察し、より深く作品を理解できるよう配慮する。マーチング・バンド「ムジカ」と合同で研究の成果を発表し、演奏会実施においての総合マネジメント力が学べるようにする。</p>					
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業実施のための環境整備</li> <li>2 世界のマーチ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解</li> <li>3 世界のマーチ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究</li> <li>4 世界のマーチ(発展)表現の可能性を探求</li> <li>5 世界のマーチ(まとめ)、研究発表会の企画・立案</li> <li>6 マスターピース～ヨーロッパ楽曲の全体像を把握</li> <li>7 マスターピース～ヨーロッパ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解</li> <li>8 マスターピース～ヨーロッパ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究</li> <li>9 マスターピース～ヨーロッパ(発展)表現の可能性を探求</li> <li>10 マスターピース～ヨーロッパ(まとめ)研究発表会の演奏曲決定</li> <li>11 マスターピース～アメリカ楽曲の全体像を把握</li> <li>12 マスターピース～アメリカ(基礎)楽曲分析、演奏スタイルを理解</li> <li>13 マスターピース～アメリカ(応用)楽曲分析に基づく表現を研究</li> <li>14 マスターピース～アメリカ(発展)表現の可能性を探求</li> <li>15 マスターピース～アメリカ(まとめ)研究発表会へ向けてのスケジュール決定</li> </ol>					
<p><b>【テキスト】</b>  必要な時に担当者より指示、配布する。</p>					
<p><b>【参考図書】</b>  なし</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  研究発表会の演奏成果、積極性、協調性(40%)授業への取り組み、向上のための努力(30%)全体運営への貢献度(30%)</p>					

対面授業				11007	
吹奏楽Ⅱ			長瀬 敏和、他		
Brass bands Ⅱ					
履修年次 1～4	2 単位	後期	2 コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>  吹奏楽マスターピースや編曲作品、最新作品などを取り上げる。それぞれの作品の時代背景などを考察し、より深く作品を理解できるよう配慮する。マーチング・バンド「ムジカ」と合同で研究の成果を発表し、演奏会実施においての総合マネジメント力が学べるようにする。</p>					
<p><b>【授業内容】</b>  1 ガイダンス、研究発表会マネジメントの確認、研究発表会プログラムの練習楽曲の全体像を把握  2 研究発表会プログラムの練習(基礎)楽曲分析、演奏スタイルの理解  3 研究発表会プログラムの練習(基礎)木管、金管打楽器、分奏  4 研究発表会プログラムの練習(応用)楽曲分析に基づく表現の研究  5 研究発表会プログラムの練習(応用)木管、金管打楽器、分奏  6 研究発表会プログラムの練習(発展)表現の可能性を探求  7 研究発表会プログラムの練習(発展)木管、金管打楽器、分奏  8 研究発表会プログラムの強化練習(定着)前半プログラム、合奏  9 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、合奏  10 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、合奏  11 研究発表会プログラムの強化練習(定着)後半プログラム、分奏  12 研究発表会プログラムの強化練習(定着)全体プログラム、合奏および分奏  13 研究発表会プログラムの強化練習(定着)ランスルー、確認・修正  14 研究発表会(実践)  15 1年間の振り返り(まとめ)</p>					
<p><b>【テキスト】</b>  必要な時に担当者より指示、配布する。</p>					
<p><b>【参考図書】</b>  なし</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  研究発表会の演奏成果、積極性、協調性(40%)授業への取り組み、向上のための努力(30%)全体運営への貢献度(30%)</p>					

対面授業				11008
和声学I			米倉 由起	
Harmony I				
履修年次 1~4	1 単位	前期	1 コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  「和声」は西洋音楽を理解する上で欠くことができない基礎知識です。演奏する上でも、作品を分析する上でも、曲を書く上でも、まずはじめに学習する領域とっていいでしょう。「和声学 I」では基本となる主和音、下屬和音、屬和音、II の和音、VI の和音の配置や連結に際しての様々な約束事を四声体の実習を通じて学習します。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業内容のガイダンスと和声学の予備知識の解説</li> <li>2 密集配分</li> <li>3 開離配分</li> <li>4 基本形連結</li> <li>5 共通音のない場合の連結</li> <li>6 II~V</li> <li>7 V~VI</li> <li>8 禁則①</li> <li>9 禁則②</li> <li>10 Cdur 以外の課題</li> <li>11 Cdur 以外の課題</li> <li>12 第1転回形</li> <li>13 第1転回形</li> <li>14 既習範囲のまとめ</li> <li>15 既習範囲のまとめ</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b>  和声 理論と実習 I 音楽の友社</p>				
<p><b>【参考図書】</b>  特になし</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  提出課題(20%) 試験(80%)</p>				

対面授業				11009
和声学Ⅱ			米倉 由起	
Harmony Ⅱ				
履修年次 1~4	1 単位	後期	1 コマ	
<p><b>【授業の目的】</b>  和声学Ⅰで習得した基本位置での実習に続き、第一転回形、第二転回形を使うことによって、ソプラノの旋律としての動きに対し対旋律的要素も含んでいるバスの働きを理解する。またその実践的演習を経て楽曲構成の理解に繋ぐ。</p>				
<p><b>【授業内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第一転回形三和音の性質と配置</li> <li>2 第一転回形と基本形の三和音の連結①</li> <li>3 第一転回形と基本形の三和音の連結②</li> <li>4 Ⅱ第一転回形の配置と連結</li> <li>5 先行和音からⅡ第一転回形の連結</li> <li>6 第一転回形三和音を含むバス課題の実施方法</li> <li>7 第一転回形三和音を含むバス課題①</li> <li>8 第一転回形三和音を含むバス課題②</li> <li>9 第二転回形三和音のバスの定型</li> <li>10 先行和音からⅠ第二転回形～Ⅴの連結</li> <li>11 第二転回形三和音を含むバス課題①</li> <li>12 第二転回形三和音を含むバス課題②</li> <li>13 属七の和音の配置と限定進行音</li> <li>14 属七の和音のバス定型と連結</li> <li>15 属九の和音の配置と連結</li> </ol>				
<p><b>【テキスト】</b>  島岡譲 他 著『和声 理論と実習Ⅰ』音楽之友社, 1964年, ISBN9784276102057</p>				
<p><b>【参考図書】</b>  特になし</p>				
<p><b>【成績評価の方法】</b>  授業内で実施する課題(30%) 試験(70%)</p>				

対面授業				110010	
マリンスポーツ			杉山 貴義、他		
Marine Sports					
履修年次 1~4	1 単位	後期	1 コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>  (1) 野外活動を理解する。  (2) コミュニケーション能力の獲得とともに新たな人間関係の構築を目指す。  (3) マリンスポーツを経験する。  授業は学外の施設を利用し、倉敷市の沙美海岸と浅口市の青佐鼻海岸において集中講義で行う予定。実施期日は未定で3日間を予定している。  自らの余暇を豊かにする生涯スポーツの基礎的体験をするとともに、新しい人間関係形成の場となることと協調性を養うことを目的としている。  <b>※WEB シラバスに記載の「履修上の注意」を必ず確認すること。</b></p>					
<p><b>【授業内容】</b>  1 オリエンテーション  2 海水浴場でのオリエンテーリング(安全面の注意事項・準備運動・水分補給等)  3 シーカヤック基礎編  4 シーカヤック発展編  5 シーカヤック応用編  6 SUP(Stand Up Paddleboard)基礎編  7 SUP(Stand Up Paddleboard)発展編  8 SUP(Stand Up Paddleboard)応用編  9 メガ SUP 基礎編  10 メガ SUP 発展編  11 メガ SUP 応用編  12 野外調理活動(火おこし)  13 野外調理活動(BBQ)  14 海水浴  15 授業のまとめ</p>					
<p><b>【テキスト】</b>  特になし</p>					
<p><b>【参考図書】</b>  特になし</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  1) 授業への参加度(70%)  2) 各種活動への取り組む姿勢(30%)</p>					

対面授業				11011	
ウィンタースポーツ			杉山 貴義、他		
Winter Sports					
履修年次 1~4	1 単位	後期	1 コマ		
<p><b>【授業の目的】</b>  (1)雪山という通常とは異なる環境下で、代表的なスノースポーツであるスキーまたはスノーボードを集中的に経験し、スキルの向上を目指す。  (2)コミュニケーション能力の獲得、新たな人間関係の構築、社会性の涵養を目指す。  授業は学生自身が、スキーまたはスノーボードのいずれかを選択する。  長野県・志賀高原スキー場を利用し、宿泊を伴った集中講義で行う。  実施期日は、2026年2月16日(月)から2月18日(水)を予定している。  移動交通手段によっては、上記期日に加えて前泊、後泊が必要になる場合もある。  <b>※WEB シラバスに記載の「履修上の注意」を必ず確認すること。</b></p>					
<p><b>【授業内容】</b>  1 事前講習(ゲレンデやスキー・スノーボードのマナー他)  2 用具の脱着  3 基本姿勢, 平地技術, 安全な転倒方法  4 方向転換, 登行  5 緩斜面直滑降と停止  6 リフトの乗降  7 サイドスリップ(横滑り)とペンジュラム(木の葉落とし)  8 斜滑降から山まわりターン  9 直滑降から山まわりターン  10 斜滑降から1ターン  11 連続ターン(ミドルターン)  12 連続ターン(ロングターン)  13 連続ターン(ショートターン)  14 総合滑走  15 授業のまとめ</p>					
<p><b>【テキスト】</b>  特になし</p>					
<p><b>【参考図書】</b>  特になし</p>					
<p><b>【成績評価の方法】</b>  1)授業への参加度(60%)  2)各種活動への取り組む姿勢(20%)  3)運動技能(20%)</p>					

\* 学生は太枠内のみ記入

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

くらしき作陽大学長 殿

提出日	年	月	日
ふりがな			
氏名			印



この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学等					
学部・学科・学年	学部		学科		年
学生番号	性別	生年 月日	西暦 年		
			昭和・平成 年 月 日		
現住所	〒 — Tel ( ) —				
メールアドレス					

\* 履修受付締切日：前期は3月26日(木)まで 後期は9月9日(水)まで

\* 区分(教養/専門)：開講大学の区分を示しています。受講生の所属大学における区分については、申込みの際に所属大学で確認してください。

No	授業科目	区分	担当教員	単位	開講期	配当学年	備考	曜日・時限	履修希望	評価
<b>対面授業科目</b>										
11001	ロシア語Ⅰ	教養	オランスカヤ	1	前期	1~4	各科目の曜日・時間は変更の場合あり。開講大学へ事前に問合せ下さい。 「ロシア語」Ⅰ・Ⅱは受講要件なし。 「吹奏楽」はⅠ・Ⅱは受講要件なし。 「和声学Ⅱ」は「和声学Ⅰ」を履修していることが望ましい。	木 13:25~14:55		
11002	ロシア語Ⅱ	教養	オランスカヤ	1	後期	1~4		火 11:10~12:40		
11003	食統計学	専門	松本 隆行	2	前期	2~4		金 16:45~18:15		
11004	発達障害児教育総論	専門	檜皮 修、他	2	後期	1~4		木 15:05~16:35		
11005	吹奏楽の歴史と魅力	専門	長瀬敏和、他	2	前期	2~4		月 11:10~12:40		
11006	吹奏楽Ⅰ	専門	長瀬敏和、他	2	前期	1~4		木 15:05~18:15		
11007	吹奏楽Ⅱ	専門	長瀬敏和、他	2	後期	1~4		木 15:05~18:15		
11008	和声学Ⅰ	専門	米倉 由起	1	前期	1~4		木 9:30~11:00		
11009	和声学Ⅱ	専門	米倉 由起	1	後期	1~4		金 9:30~11:00		
11010	マリンスポーツ	教養	杉山貴義、他	1	前期	1~4		集中(未定)		
11011	ウィンタースポーツ	教養	杉山貴義、他	1	後期	1~4		集中(未定)		

写真提出枚数 (カラー, 4 cm × 3 cm, 裏面に大学名・氏名を記入する)	身分証明書用	学生原簿用	計
	1 枚	1 枚	2 枚